

繁殖成績を向上させましょう！

繁殖経営の生産性を向上させるには繁殖周期(発情から分娩までの期間)をいかに短縮するかが重要です。そのためには分娩後の繁殖機能を早期回復させること、発情の発見を確実にこなうことがポイントとなります。



適正な飼料管理

分娩後の初回発情及び強い発情をこさせるためには、適正な飼料管理が必要です。

栄養の優先順位

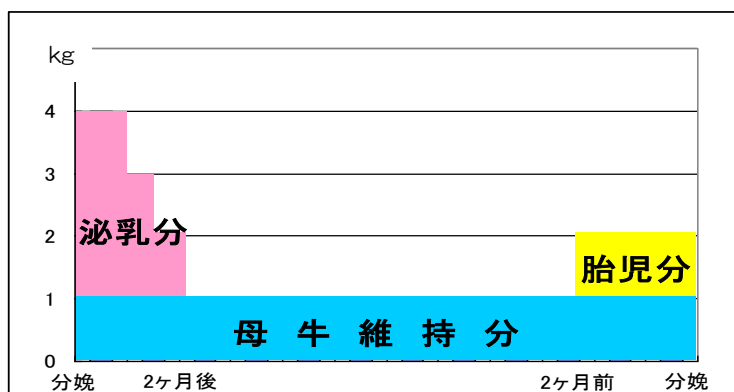
生体維持 > 胎児の成長 > 自分の成長 > 産乳 > 体脂肪蓄積 > 繁殖

繁殖の優先順位は最も低いいため、母牛の栄養状態は繁殖に大きな影響を及ぼします。

①分娩前後の増し飼い

分娩前からすでに卵胞の発育が始まっているため、分娩2ヶ月前からの母牛の栄養管理が重要になります。濃厚飼料の増し飼いをしっかり行なうと、分娩後の受胎率向上に繋がります。また、分娩前2ヶ月前頃から胎児は急速に発育するため、増し飼いは胎児の栄養補給及び胸腺の発育を促して免疫機能を向上させる効果もあります。

増し飼いの目安



維持期の濃厚飼料は1kg以下、分娩2ヶ月前から2kg前後、分娩後は3~4kg前後を受胎が確認するまで給与します。**母牛の体重や栄養状態によって給与量を調整しましょう。**

②ビタミン補給と良質な粗飼料

分娩前後や泌乳開始に伴い、ビタミンやミネラルなどが多く消費されます。良質な粗飼料を安定的に給与してあげることも重要です。



観察と記録

①発情を見逃さない

発情観察は朝夕の飼料給与時、堆肥出し時、パドックでの運動時、つなぎ場での手入れ時、休息時など回数を多くするほど発見率が上がります。また、朝夕決まった時間に発情観察を行なうこともポイントです。種付けをした場合、1周期(約21日後)のチェックも忘れず行ないましょう。

②記録をつける

発情、種付け、分娩、発情予定、分娩予定をしっかりと記録しましょう。